

2022年7月14日に開催された2022年度第3回理事会（臨時）の概要をお知らせします。

### <決議事項>

#### ●第13期（2022年度）補正予算について

収支予算書と、公益/収益事業それぞれの数字がわかる収支予算内訳書を作成している。予算書は「当年度」は当初予算、「補正額」が当初予算より増減した数字。収入が460百万円程度増額となり、その分支出も460百万円弱増加となった。当初は285百万円の赤字予定だったものが、ほぼ同レベルの281百万円程度の赤字補正予算となった。

補正を組んだ目的として①ここ数年のコロナ禍で事業を実施できず公益事業の黒字が出ていたため解消する必要があること。②トップパートナー獲得による財源を使い、これまでの赤字拡大の見通しから事業を断念したもの、節約・縮小していたものに充てていくこと。③当初予算で年度がスタートしてから3か月ほど経過しているので実態に合わせて調整することの3つがある。

#### 【収入部分の大きな変更は5点となる。】

- ①トップパートナー獲得を主とする協賛金の増額
- ②VNL男子大阪大会の上振れ予想
- ③VNLにおけるVolleyball World、スポーツ庁からの補助金の計上
- ④JOC補助金減額：
- ⑤ビーチバレーボール大会の補助金減額

#### 【支出の変更点は各部次の通りとなる。】

[HP]：VNLファイナルラウンド等の参加費用増額

[ビーチ]：海外旅費の助成増額、ツアーの魅力引き上げイベントとして増額

[国際]：VNL開催経費増額

[国内]：各大会の費用増額

[マーケティング]：ブランディングおよび協賛獲得経費の増額

[広報]：ウェブサイトリニューアル費用増額

[総務]：会長旅費やリクルート費用等増額

[事務局]：JVA内リモデリングおよび法人化対策増額

また「2. 経常外増減の部」にある「正味財産期首残高」については、2021年度決算が確定したため、実績にあわせて修正した。

前回の理事会で説明した収支相償（公益事業の黒字解消）の点については、当初予算と補正予算がほぼ同額の赤字予算となっているため、予定通りであれば公益の黒字を解消できる見込みである。コロナが長引く等で事業が実施できないことなどから公益事業の黒字が出る場合には、その都度、対策を考えていきたい。

## ○その他

川合会長より、これから進行していくプロジェクトについて報告された。

### 1) 加盟団体法人化プロジェクト

大阪府バレーボール協会の不祥事をうけて、加盟団体代表委員総会で、「法人化してほしい」との方針を示した。そのためにプロジェクトチームを組まなければならない。愛知県協会、東京都協会での実績があるため、灰西業務執行理事、小縣、小柴理事によるプロジェクトチームにて推進していただきたい。会見の翌日、JOC 山下会長からもよい方向に進んでいると思うとコメントをいただいた。

### 2) 収入源検討プロジェクト

カプコンという大きなスポンサーがついたが、2024 年までの契約である。継続した安定した収入源を獲得すべく、こちらもプロジェクトチームを作りたい。金川理事より、継続的な収入源を確保すべきとのご提案をいただいた。危機感も感じていたため、金川、須藤理事とマーケティング戦略推進部の藤山部長に中心になってもらい、長期的な収入を考えたプロジェクトを進めたい。

指導者育成や組織改革のプロジェクトなど、他にもやらなければならないことがある。すぐに一斉にスタートすることは難しいが、長年の課題だった。メンバーは未定だが、しっかりと色々な理事と連絡をとりながら進めていかなければならないと思っている。

以上